

第27期第3回横浜市児童福祉審議会会議録

日 時	平成22年1月22日（金）10時から11時30分まで
開催場所	日本大通ビル2階 マツムラガーデンホール
出席委員	齋藤委員、新納委員、伊達委員、辻委員、鈴木委員、栃木委員、納米委員、米田委員、小坪委員、松原委員、岩本委員、長谷山委員
欠席委員	加藤委員、小松崎委員、新保委員、増田委員、山本委員、竹内委員、四方委員、飯田委員
開催形態	公開（傍聴者1人・報道0人）
議 題	<p><b>【報告事項】</b></p> <p>1 各部会の審議事項</p> <p>2 「次世代育成支援行動計画」後期計画について</p> <p>3 「将来にわたるあんしん施策」について</p> <p>4 その他</p>
決定事項	なし
議 事	<p><b>【報告】</b></p> <p>1 各部会の活動報告について 各部会の審議内容について報告される。意見・質問なし</p> <p>2 「次世代育成支援行動計画」後期計画について 事務局より説明</p> <p><b>（納米委員）</b> 基本施策3の取組として、待機児童の解消と保育の質の向上が挙げられていますが、両方を実現するのは大変難しいことであると思いますが、具体的にはどのように実現されようとしているのでしょうか。</p> <p><b>（事務局）</b> 量を増やしていく上では新しい保育園、あるいは新しい法人が考えられますが、最近では株式会社など民間の力も借りています。また、既存の認可保育所あるいは横浜保育室、幼稚園も含めていろいろな資源の力をなお一層いただき、それと共に、地域の中での情報交換や研修、それらを共同実施する場をつくっていくなど、地域全体で質の向上を図り、第三者評価といった仕組みも活用し、それらを推進しながら実現していきたいと考えています。</p> <p><b>（辻委員）</b> 基本施策6で、児童養護施設の新規整備とありますが、若い職員が多く、大変な状態ということで、子どもたちが問題を起こすと、職員は自分を責めたり、いつまで安心して働けるのか不安という声を聞きます。新規整備も重要だと思いますが、既存の施設の職員が安心して長く働けるように是非、力を注いでいただきたいと思います。</p> <p><b>（事務局）</b> 児童養護施設は昨年50年ぶりに、2ヶ所横浜市内で新たにオープンし、今後も新規整備等を進めてまいります。おっしゃられるように、福祉施設は人材が第一ですので、人材育成につきましても各法人とも連携し、また法人間の連携も含めてぜひ育成が図られるよう、職員が働きやすい環境にできるように努めていきたいと考えています。</p> <p><b>（岩本委員）</b> 基本施策7について、これは基本施策6に関連してくると思いますが、障害のあるお子さんの中には少なからず虐待などの状態に置かれている子どもがいます。障害児への支援は基本施策6と密に関連していかないと十分に取り組みないのではないかと思います。是非そうした観点・視点も今後取り入れていただきたいと思います。</p> <p><b>（事務局）</b> 知的障害児の施設でも虐待を受けている方が非常に増えている状況です。最近では軽度の知的障害あるいは発達障害、さらにそうしたことを背景に虐待を受けているお子さんが増えてきています。早期発見も含め、施策6の虐待防止の観点と連携し、児童相談所等も関わりながら取り組んでまいります。</p>

**(伊達委員)**

私は社会的養護関連の仕事に長く携わっていますが、社会的養護と障害児の部分とは重なると感じています。障害の有無に関わらず、横浜市で一度、社会的養護という枠の中でとらえて対応していかなければならない子どもがどのくらいいて、それに對する施策量がどのくらい用意されているのかを把握すべきではないかと思います。

**(事務局)**

全体像といいますか、ボリュームを把握できているかというとなかなか難しいところですが、やはり基礎的な全体像の把握が欠かせないと思っておりますので、そうした点については今後工夫していきたいと考えています。

**(伊達委員)**

基本施策6の例として強化型児童家庭支援センター(仮称)の設置ということになっていますが、このときに議論したのは、これはいわゆる社会的養護の一つとしてセンターという形でアプローチするわけです。障害、社会的養護という分け方ではなくて、子どもを網羅する福祉システムを横浜で骨組みをつくってもらいたいと思います。

**(事務局)**

強化型児童家庭支援センター(仮称)は、もともと児童相談所のブランチ的な意味合いを持っていた児童家庭支援センターに、さらに具体的なサービス提供なども含めた機能を強化したものです。児童相談所やその他の関係機関との連携も想定していますが、確かに障害や社会的養護というくくりではなく、子どもという視点で全体を捉えるということは、一つの大事な視点かと思っておりますので、整備にあたっては今後、具体的なあり方についてご相談させていただきながら進めてまいります。

**(納米委員)**

ここに挙げられている施策はすべてがすべてに関連すると思っております。基本施策8に入っているDVへの対応と、DVが起きている家庭で子どもにも暴力が及んでいることは切っても切れません。現在、策定中のDV計画での取り組みがメインになるのか、この計画の中ではどのように関連をお考えになっているのかをお聞かせください。

**(事務局)**

ご承知のようにDV基本計画の策定作業が別途進んでいますが、今回のかがやけ横浜こども青少年プランにも項目として当然入れさせていただき予定ですが、

各委員から今までいろいろご意見いただいておりますが、やはり共通するのは縦割りではない、子どもを中心に据えた施策を展開してほしいということだと思います。いろいろな計画があり、対象者を限定した計画もありますが、子どもという大きな枠で捉えて共通して支援していこうというのが、かがやけ横浜こども青少年プランですので、ここに書かれている10の施策はすべて関連していきます。

**(松原委員)**

3点あります。1点目は児童相談所職員の増員と同時に資質の向上、それからやはり児童相談所だけでは限界があると思っておりますので、児童相談所を一つの核とする支援ネットワークの充実についても具体的なことが盛り込まれるといいと思っております。

関連して2点目、社会的養護でもいわゆる民間との連携が進んでいるかと思っております。民間との連携については一定の民間機関、特にNPOなど措置費が入らないところ、財政的な支援がないととてもやっていけない部分がありますので、このかがやけ横浜こども青少年プランは、社会的な計画だと思いますので、そこをぜひ具体的に考えていただきたいと思っております。

3点目は、他都市、他の自治体を見ても、子ども全体を取り組んだ、次世代育成支援行動計画は横断的な計画であるといいながら、各施策のところ担当部局がついてしまいます。せっかく横断的な計画をつくられるので、最後に担当課を見たら縦割りでしたということのないような形でできるといいと思っております。

**(事務局)**

児童相談所の職員の資質の向上も非常に大きな課題だと思っております。社会福祉法人だけではなく、横浜市の社会福祉職全体でも非常に若い職員が増え、従来のノウハウの蓄積・伝承を含めて大きな課題になっているところですが、児童相談所の職員の資

	<p>質向上等につきましても取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>それから関係機関とのネットワークの形成はもちろん重要なことですので、現在、各区単位で虐待等に関連する関係者、機関が集まった連絡会を実施していますが、各々の役割分担を含めて、きちんと連携がとれるようにしていきたいと考えています。</p> <p><b>(齋藤委員長)</b></p> <p>皆さんからご意見いただいて、共通していることは、とにかくすべてマトリックスにやっていくということです。ここで11の局・課が連携していますが、ただ集まっただけでは困るので、そのことを受けて、きちんと役割と責任を明確にしながらやっていただきたいと思います。</p> <p><b>3 「将来にわたるあんしん施策」について</b></p> <p>事務局より報告</p> <p><b>(長谷山委員)</b></p> <p>今、横浜では重症心身障害児者が大変増えていて、ご家庭でお子さんたちを見ているということではとても大変な状況にあると思います。ご家族は本当に早く多機能型の施設が欲しいといつもおっしゃっています。そういう意味では先ほど、重症心身障害児施設の整備・強化とありましたので、ここで具体的にこの施設を考えているなど、もしあれば教えていただきたいと思います。</p> <p><b>(事務局)</b></p> <p>重症心身障害児施設につきましては、今、横浜市は来年度予算の編成の最終段階でございまして、まだ現時点では、はっきりしたことは申し上げられませんが、ぜひ整備していきたいということで、新年度予算で何らかの形で目出しできればと考えているところです。</p> <p><b>(伊達委員)</b></p> <p>後見的な支援制度は社会的養護の18歳以後の子どもたちはどうするのかという施策と重なります。専門部会で小坪委員から、実は18歳以後いろいろな犯罪に巻き込まれる、社会的養護を経験した子どもたちが多く、ひとりぼっちになってしまう、というお話がありました。現実問題として、18歳になった時にそこでもう一踏ん張り、二踏ん張りが必要です。18歳以上30歳未満の間に後見的支援みたいなことができる仕組みを地域ごとにきちんとつくっておけば随分違うのではないかと思います。</p> <p><b>(齋藤委員長)</b></p> <p>子どもから高齢者まで、一貫性が大事だろうと思います。以前の仕事の経験から、18歳、20歳での切れ目は私も実は気にかかっています。そういうことも頭に入れ、計画を策定していただきたいと思います。</p> <p><b>(新納委員)</b></p> <p>市長が変わりましたが、林市長は子どもに目を向けてくれていますので期待しています。本日の説明を聞き、しっかりやってもらえるのではないかと感じました。この後見的支援推進プロジェクトの内容も、これは切実に親が困っていることだと思いましたし、将来にわたるあんしん施策が本当にできることを期待しています。</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 委員名簿</li> <li>(2) 事務局職員名簿</li> <li>(3) 横浜市児童福祉審議会条例</li> <li>(4) 横浜市児童福祉審議会運営要綱</li> <li>(5) 里親部会審議報告</li> <li>(6) 保育部会審議報告</li> <li>(7) 児童部会審議報告</li> <li>(8) 障害児部会審議報告</li> <li>(9) 「次世代育成支援行動計画」後期計画の骨子について</li> <li>(10) 「将来にわたるあんしん施策」について</li> </ul>
特記事項	なし